

まちの話題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお寄せください。



寒さに負けない

寒中水泳大会がありました



▲一斉に海に駆ける学生たち

津屋崎海岸で1月16日、第42回九州地区大学合同寒中水泳大会が開催されました。九州大学や西南学院大学など九州内の八つの大学から、水泳部に所属する87人の学生が集まりました。また、参加した学生の内48人は新成人で、赤いふんどしを身に付けていました。当日の気温は8度、そして水温は10度と昨年に比べ暖かな日でしたが、ふんどし姿の学生たちが震えるには十分な寒さでした。

準備体操を終えた学生たちは、太鼓の合図で一斉に海に駆け入りました。真っ先に海に入った赤ふんどしの新成人たちは、水を掛け合ったり、水中で胴上げをしたりしていました。この日参加した九州大学2年生の中崎太陽さんは、「今日は晴れやかな天気になりました。この天気のように今年はいい年になりそうです」と寒さの中、笑顔で語ってくれました。

無我夢中で助けました

人命救助への表彰がありました

1月27日に、市内に住む花田良平さん、三澤賢博さん、宗像市に住む佐々木健さんが人命救助を行ったとして、宗像消防本部で表彰が行われました。

今回表彰された3人は、昨年の12月28日に宗像市の山田川で発生した車の転落事故で、川の中で横転した車の中から、男性を救い出しました。

た。膝まである川に入り、頭から水につかる男性を、手探りでシートベルトを外すなどしながら運搬席から出し、川岸まで引き上げたそうです。福津市の消防団に所属している花田さんは、「事故現場を見つけてからは無我夢中でした。必死になって助けました」と当時を振り返りながら語ってくれました。



▲表彰された花田さん(左) 三澤さん(中央) 佐々木さん(右)

世界文化遺産登録を応援

JAむなかたから寄付がありました

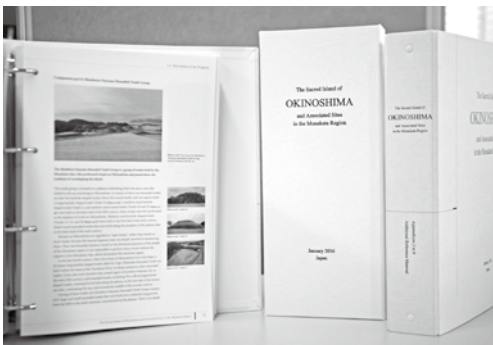


▲目録を渡した川口組合長(中央) 小山市長(右)と谷井宗像市長(左)

JAむなかたが実施した、世界遺産登録祈念定期預金に伴う寄付金の贈呈が福津、宗像両市にありました。1月20日に宗像市役所で行われた贈呈式では、JAむなかた代表理事組合長の川口正利さんが、小山市長と谷井宗像市長に目録を手渡しました。川口組合長は「みんなで登録に向けて進んでいきましょう」と語ってくれました。それを受けた両市長は「ありがとうございます。大切に使用します」と感謝の言葉を述べていました。

世界文化遺産登録に向けた一歩

世界文化遺産登録推薦書が提出されました



▲提出された推薦書のレプリカ

1月27日に、新原・奴山古墳群を含む「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界文化遺産登録推薦書がユネスコに提出されました。英語で書かれた推薦書には、世界遺産の成り立ちから、出土した品々の詳細な紹介まで、多くのことが記載されています。平成29年の世界文化遺産登録に向けて、着実に前進しています。

もしものときに備えて

防災への取り組みが表彰されました



▲賞状を抱える吉田校長と小山市長(右) 金子教育長(左)

津屋崎小学校が取り組んできた防災教育が、文部科学大臣から表彰されました。3年間継続している防災への取り組みによって、子どもたちの命への考え方が変化してきたそうです。また、取り組みは地域も巻き込んだものとなり、防災訓練への参加も積極的に行われました。吉田善仁校長は、「子どもたちが自ら命を守るという意識をさらに育んでくれれば」と防災への意識の高まりに期待を持って語っていました。

心を一つにがんばるチーム

ダンスチャンネル3位受賞



▲agora rhythmのメンバーと神野彩叶さん(後列右)

福岡小学校の神野彩叶さんが所属するダンスチームagora rhythmが昨年11月8日、名古屋のアスナル金山で開催されたダンスチャンネルALJAPAN SUPER KIDS DANCE CONTEST2015 U-12部門(12歳以下)に出場し、みごと3位に輝きました。先生の細川智亜希さんは「毎日の練習と努力の結晶です」と語ってくれました。